

著小百科』発刊につながったと述べている。一方、「中国医業書の辞典編纂を長年試みたものの項目数は一千点は下らず、容易には果たせない」との思いについても振り返っている。もちろん中国語の高い能力と共に中国および日本の医史に精通し、学術的な姿勢がなければ成せることではない。

本書は人物編と書籍編からなり、どちらも時代別に記され、人物編では「太古・春秋戦国」から始まり、「前漢・後漢・三国・六朝」、「隋・唐」、「北宋」、「南宋」、「金・元」、「明」、「清」、そして辛亥革命以降の「近現代」の医家まで333名の略伝が記述されている。そこには職称（専門医家ではないが伝統医学の発展に寄与した官僚、官吏、文人などの職称）、著作や引用文献も記されている。書籍編では、漢時代の「漢書芸文志・方技」、「馬王堆医書」、「黄帝内経素問」、「傷寒論」、「金匱要略」から清時代まで、代表47点の書籍について記述されている。本書には人名索引と書籍索引が独立して備わり、人名検索によって当該人物の解説に示された著作から書名索引に進めば、中国医書辞典としても活用できる。すなわち人名索引から著作を紐づける新しい辞典であり、小曾戸氏による大逆転の発想である。人物編および著作編とも時代背景や周辺知識、日本との関係についても簡潔明瞭に解説され、日本の伝統医学である漢方医学の研究者にも欠かせない工具書となる。

私自身、本書を手にとった際、先ず人物編の太古の項で伏羲、神農、黄帝の3頁ほどの解説に目を通して見た。その後は初めて出会う人物がほと

んどであったが、まるで歴史小説のように一気に近現在の人物まで興味深く通読してしまった。その理由を考えると、本書は個々の人物像（人となり）が思い浮かぶように描出される文体、何より全体を通じて歴史的な脈と根柢がしっかりしていることが挙げられる。途中に挟まれるコラムも合わせ読者、研究者へのサービス精神が伺える。

医家の一人ひとりが、どの様な立場でどの様な行動を取って伝統医学として繋いできたのか？ 関わった多くの医家について人物像を想像しながら研究することも、歴史研究の醍醐味であることを改めて感じられた著書である。

小曾戸氏が、まえがきにおいて「執筆にあたっては、現代中国の解説を引き写しにすることは避け、できる限り一次資料かそれに近い資料に基づくように努めた。」と述べている。これこそが、自身の研究が高いエビデンスレベルを保ち、医史学における第一人者として支持されている所以であろう。

あとがきでは、ご自身の祖父、父親のことを回顧されながら「本書に登場する人物は全てにおいて歴史の因果を痛感せずにはいられない。むしろ他の先人・友人からも多くのことを学んだ。」と締めくくっておられる。この次はどのような工夫がされた書籍を刊行されるか、益々楽しみである。

（松田 隆秀）

[大修館書店、〒113-8641 東京都文京区湯島2-1-1、TEL. 03 (3868) 2290、2023年1月、四六判、271頁、2,400円＋税]

書籍紹介

F. A. ヨンケル・フォン・ランゲック 著
八木聖弥 監修 熊谷知実 翻訳

『瑞穂草——京都療病院初代外国人医師の日本文化論——』

京都府立医科大学の前身・京都療病院の初代外国人医師 ヨンケル (Ferdinand Adalbert Junker von

Langegg, 1823–1901) が綴る日本文化史の抄訳である。原著は1880年にライプツィヒで出版された。ヨンケルはオーストリア出身。軍医やイギリスでの病院勤務を経て1872(明治5)年来日し、約3年半の滞在ののち、1875(明治8)年に離日した。京都療病院で診療・教育にあたるかたわら、日本文化に惹かれたヨンケルが、文学、地理、歴史、民俗、信仰などについて幅広く調べたその記録である。タイトルの「瑞穂草(みずほぐさ)」という言葉もヨンケル自身の選択ということで、彼の日本語への造詣の深さがうかがえる。医学・医療に直接関係する内容ではないが、明治初期の京都における西洋医学の確立に大きな功績のあった医師による日本文化の観察、西洋人読者へ向けた日本紹介論として興味深い。

以下で目次を紹介する。

第1章 日本の文学：日本語の構造、日本の文学と詩について

- 1 上代大和言葉／
- 2 日本語の構造／
- 3 日本文学

第2章 文房具

- 1 紙／
- 2 墨／
- 3 筆

第3章 大日本：日本の地理の概略

- 1 大日本／
- 2 地理的状况／
- 3 河川／
- 4 郵便・電信・鉄道／
- 5 2つの首都ほか

第4章 大和漫筆：祭礼・ふるまい・風俗と種々のこと

- 1 はじめに／
- 2 日本の特筆すべき祭と大衆娯楽

第5章 日本の貨幣の歴史

(永島 剛)

[文理閣, 〒600-8146 京都市下京区七条河原町西南角, TEL. 075 (351) 7553, 2022年12月, A5判, 258頁, 3,500円+税]